

No	9	分類	3-(1)-ア	資料名	ありがとう	学年	3年	領域	道徳	2-(2)
----	---	----	---------	-----	-------	----	----	----	----	-------

1 ねらい

- 高齢者や困っている人に対して思いやりのある行動ができ、進んで人の役に立つことに取り組もうとする。

2 趣旨

- 日常生活の中で、人の役に立つことができたという喜びを実感することは、自己有用感につながり、他者への想像力や社会参加への意欲を高めることができる。
- おばあさんになかなか席をゆずることができない「ぼく」が、やっと言うことができた喜びが描かれている。席を譲るまでの心の変化や、「ありがとう」と言われた時の心の動きは、生活体験上から想像できると考えられる。
- 「ぼく」の心の動きを丁寧に追い、かけ出したくなった「ぼく」の様子から、人の役に立てた喜びを感じ取らせる。

3 配慮事項

- 「バスや電車などの車内では、必ず席をゆずりなさい」といった価値や規範意識の押しつけにならないように配慮する。

4 展開例

学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 席を譲りたいけど言い出せない「ぼく」の気持ちを考える。 「ぼく」は、せきをゆずりたいのになぜ言い出せなかったのでしょうか。 ・練習で疲れていたから。 ・誰かが席を譲ると思ったから。 ・ちょっと恥ずかしかったから。 ・言い出す勇気がなかったから。	・車内でおばあさんを常に意識しているぼくの様子から、「おばあさん、どうぞ」と言って席を譲るまでの心の変化に気づかせる。
2 「ありがとう」と言われた時の「ぼく」の気持ちを考える。 おばあさんに「ありがとう」と言われた時、「ぼく」はどんな気持ちだったのでしょうか。 ・おばあさんの役に立ててよかった。 ・勇気を出して声をかけてよかった。 ・「ぼく」もううれしい気分になった。	・席を譲るまでの心の変化から、勇気を出して声をかけたことに気づかせる。 ・自分の席を譲るという行為が、人の役に立つことができたという喜びにつながったことを理解させる。
3 これからの自分の生き方や在り方について考える。 あなたなら、どんな場面で人の役に立つことができるのでしょうか。 ・勉強でわからない友だちに教える。 ・友だちの相談にのる。 ・重たい物を運ぶ時に手伝う。	・日常生活において自分ができていることを考え、人の役に立とうとする意欲から実践につなげるとともに、自己有用感を高めさせる。